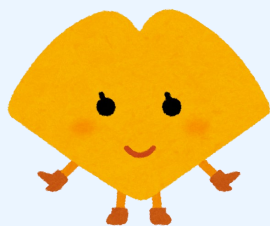


緑風だより

第90号 令和4年9月



発行 障害者支援施設 神奈川県立さがみ緑風園

〒252 - 0328 相模原市南区麻溝台2 - 4 - 18

TEL042 - 766 - 2255 URL www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/



「個別支援」で選択肢を増やそう 地域支援課 早坂 一生

当園の日中活動が大きく変わりつつあります。「日中活動」と言うと従来、「地域支援課が行うもの」といったイメージがありましたが、園の運営改革により、日中活動は今までより更に「利用者の支援計画やご希望に沿ってホームと連携して行う」ものと位置づけられました。そこで昨年度より始まったのが利用者アンケートに基づいたニーズに沿った活動をホームと共に行う「小集団活動」です。そして今年度はホームの「個別支援」に支援課も参画していく新しい形の活動を開始しました。

緑風園では、従来からホームが中心となって、担当職員のタイムリーなニーズの把握のもと、買い物や散歩など利用者の希望に応じ、さまざまな「個別支援」が実施されています。先の「小集団活動」も通常の「グループ活動」も様々なプログラムの中から、利用者が好きな活動を選び、自由に参加していますが、「より個別化した利用者の希望を叶える」ことを目的として、地域支援課が「個別支援」に参画することとなりました。

この「個別支援」においては、従来の余暇支援等の充実に加え、「日中を過ごす場」や「生活の場」の選択に関わる、利用者の希望の抽出や意思決定支援のための情報収集・情報提供の場として機能することも目指しています。

令和3年11月発出の「当事者目線の障がい福祉実現宣言」において、県立障害者支援施設は「通過型施設」として地域生活移行を目指していくとの方針が明確に打ち出されたこと等から、緑風園ではホームを中心に地域での生活を目指した支援を推進しています。しかし、長期にわたる入所生活の中で、地域で生活するイメージをなかなか持ちえない利用者さんもおられます。

「個別支援」において、様々な施設や生活介護事業所、公園やお店などの地域資源をご自身の目で直接見る機会を提供し、より具体的なイメージを持って、将来の生活の選択肢を広げることができるよう支援します。コロナ禍で面会が難しい状況がありますが、先に施設等に移行された方々に、移行しての感想や緑風園の生活との違い等について、訪問して直接伺う機会なども設けられたらと考えています。

利用者の皆さまが、ご自身の未来の選択肢を増やし、希望する生活が実現できるよう、ホームと連携し「個別支援」の充実を図って参ります。



菊田すぐるさん

前は1ホームにいたよ。6ホームに来てからもう5か月になったよ。杉山さん（職員）のグループとか、カラオケで山口百恵とか長山洋子を歌うのが大好き。毎日の楽しみなんだ。これからはグループとカラオケはやりたいな。ご飯は、おかずがハンバーグだとすごく嬉しいんだ。次にハンバーグがでるのはいつかな。おやつはあんことか羊羹の甘いやつが好き。おやつとジュースはカタログを見て自分で食べたいものを決めてるんだ。6ホームには慣れてきたけど、もっとたくさん友達を作りたい。元気よく「おはよう」って毎朝友達に挨拶してるよ。もっと友達とお話ししたいんだ。

こないだ7月1日に61歳になったよ。お姉さんとお母さんに新しいTVを買ってもらったんだ。カッコいいでしょ！杉山さん（職員）に自慢したいな。昔に長山洋子のコンサートに車で行ったことがあるんだ。またいつかおでかけして長山洋子のコンサートの生演奏を聴くのが夢なんだ。

宮川さつき様

菊田すぐるの家族です。脳性まひの障害を持ち、昭和61年に25歳で入所し、36年間お世話になっております。その間、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。入所して10年目に電動車椅子購入の提案がされ、試行錯誤を重ね、1年後に自分の手元に届きました。それまで人の手を借りることでしか移動できませんでしたので、自分の意志で好きな場所に移動できるようになったことは、「動ける幸せ」を実感できた日々でした。徐々に、不随運動が強くなり乗れなくなってしまうりましたが、15年間、水を得た魚のように園内を自由に動き回れたことは、「誇れる思い出」としてしっかりと心に刻まれていると思います。

自分の人生をどんな時でも受け入れてたのしんできたすぐるを温かく見守り、笑顔を絶やさぬように関わっていただいている職員の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も変わらぬ支援をよろしくお祈りします。

～診療所より～

今年の梅雨明けは予想以上に早く、あっという間に夏を迎えました。しかし、新型コロナウイルスは衰えることなく変異を繰り返して猛威を振るっております。とうとう職員にも感染者が出ましたが、原稿を書いている時点では幸い利用者への感染はありません。重症化率は減少していますが、緑風園の利用者は基礎疾患を持っている方が多いので油断はできません。依然先が見えないコロナ禍ですが、診療所は感染対策を引き続き厳重に行っていきますので、家族の皆様も来園の際は感染予防をしっかりと行ってください。

現在、利用者の地域移行が順調に進んでおります。利用者数は私が赴任した当時の半分以下となり、1階は閉鎖され、随分ごんまりとした園になりました。家族の皆様には不安を拭えない面もあると思いますが、診療所は今後も三思会が責任をもって運営していきますので、今後も診療所にご協力をお願いします。

診療所長 及能 久隆



編集後記 6ホーム 稲田 直洋

今年の夏は、例年のない猛暑と、物価高による景気の冷え込みを感じる、そんな寒暖の激しい夏でした。来年の夏はコロナ過が終息し、イベントで適度な熱気と、園外で涼風を感じる、そんな穏やかで楽しい夏を利用者の方と過ごせることを願う次第です。